

## 26年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

### 1. 本園の教育目標

“人間形成の土台づくり”が、学校法人谷岡学園教育理念“世に役立つ人物の養成”へとつながるように、子ども達の遊びや生活を通じた教育活動を行います。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

### 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・園児の入園から就学前までを見通し、「写真で見る教育課程」を編成する。指導計画の充実に向け、教職員間で話し合う場を多く設けるなど、教育内容の改善と個々の資質向上に主体的に取り組む。
- ・60周年を記念し、平成27年2月の公開保育をめざし、生活や遊びの中で建学の理念、教育要領が生きていることを広く説明し、小学校につながる力、人間形成の土台づくりとしての幼児教育の実践と発信をする。
- ・保護者との連携を通して、子ども達の基本的な生活習慣を推奨し、教育効果を高める。
- ・地域や系列校との連携策について検討し、日頃接することの少ない年代の方々との交流を深めることで園児の生活の幅を広げ、今後の成長に繋げていく。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	教育目標、建学の理念と幼稚園教育要領の接点を求め、子ども達の実態に即したねらいに基づいた「写真で見る教育課程」を編成すべく教職員全員で取り組み、実施することができた。
建学の理念、教育要領、教育課程、子どもの実態等を基に指導計画を作成する。	教育目標、建学の理念と幼稚園教育要領の接点を基に、各項目に対する指導計画を学年ごとに作成し、実施した。 また、子ども達の実態を踏まえて、日々各学年の担当教員が連携し、意見交換をしながら、学びや育ちを保證できる指導計画となるよう、学期毎に子どもの姿を写真で示す教育課程としての資料を作成した。文字ではなく、視覚に訴えることにより、日々の課題をイメージし易くなり、指導内容を工夫することができるようになったと感じられる。
教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充実させる研究会等へ積極的に参加し、教員一人ひとりの資質の向上に努め、60周年記念公開保育の実施に繋げる。	教職員間で園内研修・情報交換を行いながら、特に支援を要する子どもについての情報は積極的に共有し、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育を実践するよう心がけた。 各行事の打合せ及び反省会や、職員室で日々先輩・後輩の意見に耳を傾けるなど、お互いの考えを出し合い、議論す

評価項目	取組状況
	<p>る機会を持つことができた。</p> <p>また、外部団体主催の研修で学んだ内容を園内研修で積極的に報告するなど、毎日の保育の参考となる情報を共有できよう心がけた。</p> <p>なお、平成27年2月に実施した60周年記念公開保育、同研究協議では、東大阪市内及び大阪府内の私立幼稚園関係者を中心に、本園の取り組みに関する意見、現在の幼稚園を取り巻く環境の変化に対する対応や今後の動向等に関する情報交換等について、本園の新旧職員も交えた有意義な意見交換の場となり、幼稚園としての客観的な評価を受けることができた。</p>
<p>園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。</p>	<p>保護者との懇談、参観や学年親睦会などを定期的実施して子ども達の学びや育ちを伝え、加えて、子育てサロン、絵本講演会やこれらの行事とキンダーカウンセリングとのコラボ等でも保護者の思いや考えを受け止める機会を設ける等、丁寧に対応することを心がけた。</p> <p>なお、公式WEBサイトの運営は、保護者会広報部とも連携し、個人情報の管理に配慮しながら、在園児の保護者だけでなく、一般の方にも園の教育活動に興味を持っていただけるように工夫し、日常の様子、行事や園外保育の様子、保護者間で実施されたイベントの報告等、タイムリーに情報を発信した。</p> <p>谷学ネット（携帯電話を利用したメール配信システム）を利用し、行事予定や天候急変時の緊急連絡等を発信することにより、幼稚園と保護者が連絡を密に取り、情報を的確に発信することができた。</p>
<p>安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）</p>	<p>園内、園庭の環境整備のため、定期的に遊具の点検を実施した。危険な箇所がないかどうか確認し、必要に応じて補修した。</p> <p>なお、幼稚園玄関前の門扉取替工事を行い、園児が安全に登降園できるように配慮した。また、園舎東側フェンスに目隠し用ボードを設置し、公道からの視線を防ぐ事で防犯対策の一助とした。更に、子ども用トイレの個室を仕切る板を支える土台について、経年劣化が原因と考えられる腐食が見られたため、安全に配慮して取り替えた。</p>
<p>地域・系列校との連携</p>	<p>園児の成長の場を創り出すため、次のとおり実施した。</p> <p>地域との連携については、幼稚園行事（夕涼み会、敬老会）などを通じて、地域住民の方に対し、園児が思いやりの気持ちを持つことができるよう意識をつけるとともに、幼稚園の取組み内容、行事等への理解を得るよう努めた。なお、近年一部の行事については、予想をはるかに超える参加人数となっているため、安全に配慮した行事運営について法人本部と協議を行う。</p>

評価項目	取組状況
	<p>系列校との連携保育として、昨年度に引き続き大阪女子短大幼児教育科との連携保育（保育実習）を実施し、また、7月には年長組が大商大堺高校を訪問した。当日は雨ではあったが、子ども達は野菜の収穫体験、校長先生からの話、スイカの味覚を楽しみ、自然の不思議さや喜びを感じるとともに作物の実りに感謝することができた。なお、大商大高校との連携保育では、園児の意見を取り入れた玩具（木製パズル）の制作を昨年に引き続き実施した。更に大阪商業大学とは、恒例となっている11月の大学祭において年長組が制作した絵画を展示した。</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が学校評価の主旨を理解し、各自が適切に自己点検、自己評価に取り組む必要性を強く感じた。また、多様な子供に対応するため、情報は積極的に共有し、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育を実践し、さらなる教職員の資質向上をめざす。</li> <li>・60周年記念公開保育、同研究協議において得た本園の取り組みに関する意見、幼稚園を取り巻く環境の変化に対する対応や情報を活かした教育を行う。</li> <li>・家庭と協力して教育をしていくことが賢い子どもを育てる秘訣であることを認識し、保護者との連携を密にすること（特に父親の参加できる行事）を心がけた。</li> <li>・幼稚園から公式WEBサイト等で積極的に情報発信を行ったことで、保護者だけでなく、学外者にも幼稚園の教育内容を理解していただくよう努めた。</li> <li>・写真で見る教育課程編成に取り組み、子ども達の育ちや学びを全教職員が写真から読み取る難しさと解りやすさを共有した。</li> </ul>
---

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>保護者ニーズの把握と建設的なコミュニケーションのあり方を検討する</p>	<p>昨年度に引き続き建学の理念に基づいた教育に十分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を、保護者との懇談会や保育参観、担任等を通じて把握し、現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎とする。また、公式WEBサイトを用いタイムリーに情報を発信することで、保護者との連携を強化し、教育内容を深める。</p> <p>在園児保護者を対象とした保育参観は定期的に開催し、日常の保育の様子を保護者に公開する機会を継続して設ける。父親など男性が参加できる行事については、一層の定着をはかり、より充実した教育が展開できるよう企画・実施する。</p>
<p>教育力向上への取り組み</p>	<p>「写真で見る教育課程」を活用し、見える教育と見えない教育をあきらかにする。園内研修の強化と外部研修会への積極的な参加等により、教員一人ひとりの教育力のレベルアップと笑顔が発揮できる取り組みを行う。また、園内研修では、絵画制作、運動遊び、リズム表現等、子どもの成</p>

課 題	具体的な取り組み方法
	<p>長に不可欠な素養（能力）をどのように身につけさせるかを検討すべく、プロジェクトチームを設置する。毎年度末に実施している全日私幼研究機構が作成した自己評価に基づき、各教員の自己点検の結果を全教員にフィードバックすることにより、個人の問題点があれば幼稚園としての問題点として共有し、今後の教育に活かすようにする。</p>
<p>安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立</p>	<p>震災や津波、ゲリラ豪雨等の自然災害を含む大規模災害に備え、26年度に確認した園内の避難経路について再度点検するとともに、教員が各自の役割分担を自覚し、学期毎に実施する避難訓練に臨む。また、安全管理マニュアルについては、状況に即して定期的に更新する。</p> <p>なお、地元の布施警察署（生活安全課）との連携の中での防犯訓練を継続して実施し、訓練回数を重ねる中で様々な状況を想定する。また、27年度は近隣の東大阪西消防署から火災予防に対する心構えや注意事項などについて話を聞く機会を設けることができないため、消防署の指導のもと園で工夫をして実施し、効果的に子ども達に伝えていく。引き続きより良い防災・防犯体制が構築できるようにする。</p> <p>更に、法人本部危機管理担当参与とも連携し、園児が安心して幼稚園生活を送れるよう、大学警備員との連携も図りながら、園周辺の定期的な巡回指導、危険個所を把握する等、幼稚園の教職員と情報を共有するよう努める。</p>
<p>特別支援教育の充実</p>	<p>近年増加している支援を要する子ども達へのアプローチについて専門家の話を聞くなど、継続的に研修内容を実践に結びつける努力をする必要がある。引き続きキンダーカウンセラー1名を配置し、専門家と一緒に援助のあり方を検討する。子育てサロン等を通じて広く保護者に情報提供する機会を設けるとともに、保護者と連携して、一人ひとりに合った対応ができるように個人カリキュラムを作成し、対応していく。</p> <p>また、子ども達の発達や遊びの様子を把握し、保護者に適切なアドバイスをする役割を担うキンダーカウンセラーの配置により、多様な保護者への対応、特別支援の取り組みを実践する体制を整える。また、個別のカウンセリングだけでなく、従来から実施している保護者を対象とした行事と連携し、保護者に対し、子どもへの「気づき」を促すような取り組みを行う。</p>
<p>地域・系列校との連携</p>	<p>幼稚園の活動内容、行事等への理解を得るべく、幼稚園行事などを通じて積極的に働きかけ、相互理解を深める。また、系列校との連携策として、27年度は大阪女子短期大学を訪問し、幼児教育科の学生との触れ合いを中心とした保育連携を実施し、緑あふれるキャンパスの自然環境に触</p>

課 題	具体的な取り組み方法
	れる。また、例年実施している大阪女子短期大学幼児教育科連携保育（保育実習）の受け入れ、大阪商業大学の施設利用、学園祭での年長組の作品展示や大阪商業大学高等学校体育祭への参加やデザイン美術コースとの連携による木製パズル制作を行う。
子ども・子育て支援新制度への対応	「子ども・子育て支援制度」における「認定子ども園」について、研修会への積極的な参加及び東大阪市への聞き取りを行い、移行に係る情報を集約する。 その中で移行した場合の教育体制、コスト、施設設備等の状況を調査し、申請書類内容及び申請スケジュールを踏まえながら、移行か否かの検討を行う。

## 6. 学校関係者よりの意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士でトラブルがあった時等も、本人同士はもちろん、クラスみんなで話し合うようにしていることが良い。</li> <li>・ボール運動等で大学の施設を使用したり、系列校の高校生や大学生とのふれあう場面が用意されており、子どもも大変喜んでいる。附属ならではのメリットを生かしていると思う。</li> <li>・住宅事情などでペットを飼えない家庭も多いので、幼稚園でうさぎやインコ等と触れ合ったり、お世話ができるのはありがたい。</li> <li>・お昼休みのチューリップ文庫（絵本の読み聞かせ）のおかげで、本への興味が強くなり「知りたい」という好奇心が旺盛になったのではないかと感じる。自分で知ろうとする子どもの姿に「小学校につながる力」や「やわらか頭」などの「見えない力」に対する成長を感じる。</li> <li>・保護者会やクラス懇談会で子どもの様子が聞けるのは良いが、日常の子どもの様子をもう少し知ることができる機会（クラス見学など）があれば良い。</li> <li>・異年齢の子どもとの交流を通じ、自分より年下の子の気持ちを思いやる心が育ち、思いやりの気持ちが持てるようになると思う。</li> <li>・園庭は広くはないが、池があったり、花や木々で季節を感じられるような工夫がされている。実際に自然に触れたり、作物を食べることができるので子どもたちにとっては良い環境である。</li> <li>・クラス担任以外の先生方も子どもの名前だけでなく、性格なども把握してくれているため安心感がある。子どもが安心して生活を送れるように配慮が行き届いている。</li> <li>・行事や天候の急変などによるお知らせについて、以前は電話連絡だったため時間がかかったが、最近では谷学ネット（携帯電話を利用したメール配信システム）でこまめに連絡が入るので安心できる。</li> <li>・遠足、年長組の1泊保育、その他、日常保育中の様々な場面において、子どもたちに対する先生方の気配り、目配りが行き届いている。体調不良やけがなどの発生を早期に発見して適切な対応を行っているので安心できる。</li> <li>・特に幼稚園の行事の際、自動車や自転車の駐車、駐輪「マナー」や「ルール」が守られず、地域から苦情が寄せられる事がある。このため、幼稚園教員から保護者に対する指導をするだけでなく、駐輪場（屋根の設置含む）、駐車場の整備について検討して欲しい。</li> <li>・数年前と比較するといくつかの行事が縮小され、少し物足りなく寂しく感じる。保護者の理解と協力が不可欠なので難しいところがあり、保護者が参加しやすい環境作りが必要だと思う。</li> </ul>
--

- ・学園の建学の理念を幼稚園の教育目標として具体化している。
- ・教育目標を達成するための重点目標を「評価項目」として設定し、教育要領に基づく教育課程の編成や指導計画作成に際して、教職員の共通理解への取り組みを積極的に進めている。
- ・年度ごとに「今後取り組むべき課題」として新たな課題を設定するとともに、継続的な課題に関しても、具体的な取り組みの中に新しい試みを盛り込んでいる。
- ・教職員が学園の建学の理念を理解し、これを支える四本の柱を自ら実践している。特に「思いやりと礼節」と「楽しい生き方」は、日頃教職員の方と接している時に感じることが多い。
- ・限られた予算の中から、お金やモノを大切にするとともに、日常の保育や行事に際しては創意工夫し、知恵を絞り、汗を流している。
- ・学園設置校との連携、交流が進んでおり、特に大阪商業大学高等学校とは、デザイン美術コースの生徒との連携保育等交流が進んでいる。
- ・子どものリズムを大切にしつつ、楽しいけれど発達に応じて次第に難易度の上がる課題に保育者とともに取り組み、子どもが必要と感じ望んでいる手助けをしてやりながらも子どもに自力で取り組みせ、成功体験を積み重ねている保育実践と、保育全体で一人ひとりの子どもに現実感を持たせた見通し力を育み、自らが満足できる課題・問題を自力で発見し、それらを自ら解決する活動ができ、自分で探求する心を培っている保育が特に優れている。これらは本学園の4つの教育の柱を具現化しており、建学の理念である「世に役立つ人物の養成」に合致し、アメリカ等で飛躍的に進んでいる幼児教育の研究の示す結果を先取りして実現できている点で特に優れていると言える。
- ・子ども達の遊ぶ姿の中に、年齢の枠を超えた交わりがある。園庭で「幼虫をとらえ、それに興味を持った数人の園児たちの会話や行動の中に、仲間同士で切磋琢磨し成長する姿が見られた。

以上のことを具現化、継続するべく、各事業を推進する。

## 7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。